

平成23年度

医療連携懇話会の御報告



10月27日(木)、大森東急インにて医療連携懇話会を開催しました。

当院は昨年の8月に地域医療支援病院に承認されて以来、地域の発展に貢献するため急性期医療を実践しておりますが、地域の皆様との密接な連携なくしては地域医療を支えることはできません。

懇話会では、近隣の医療機関、調剤薬局、介護保険関連会社、訪問看護ステーション等から120名の方々にお越しいただき、日頃の感謝の意をお伝えすることができました。



児島連携室長



野村院長

会は当院の野村院長の挨拶から始まり、続いて、児島連携室室長から、平成 22 年度の当院の連携状況についても説明がありました。

続いて、診療科案内として、鎌田小児科副部長から「東京労災病院小児科 1 年間のあゆみ」、穴見外科副部長から「東京労災病院呼吸器外科手術実績」について報告がありました。

来賓の御挨拶は金子大森医師会長、南雲蒲田医師会長からいただきました。

これからも地域の患者さんによりよい医療を提供するために、皆様との関係を密なものにしていきたいと考えております。

今後ともよろしくお願い致します。

〈野村院長挨拶〉

本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

こんなにたくさんの方が当院を支援してくださっているということを改めて実感している次第です。本当に感謝申し上げます。

昨年の 8 月、当院は、地域医療支援病院として承認されました。これも一重に皆様方の御協力のたまものです。

当院として、これから何をやるべきかを考えて、皆様に御協力いただきながら、地域医療の模範となるような方向で進んで行きたいと考えています。

地域医療支援のためのセミナー、講演会の開催、また、先生方にはオープンベッドもぜひご利用いただきたいと思います。

当日の様子



大森医師会金子会長御挨拶



蒲田医師会南雲会長御挨拶

震災への対応

3月に大震災が発生し、当院も被災者の皆様の支援を目的として、医療救護班を3チーム派遣しています。

また、福島原発で過酷な作業に殉じている労働者の健康管理のために、医師を2回派遣して

います。

12月にも1名派遣予定です。

国難と言えるこの事態に、出来る限りの支援を提供するというのが労災病院の使命であると考えております。

診療科について

小児科、胸部外科は昨年度から常勤医により診療を行っております。

のちほど、この1年間の歩みを診療科責任者から話してもらいます。

さらに、この8月に甲状腺がんの診療、手術

の経験豊富な医師が赴任いたしました。

皆様方のお陰で、少しずつですが、充実した医療の提供が行えるようになってまいりました。

地域医療連携の強化

これからも、「地域とともに進む東京労災病院」をモットーとして職員一同、進んで行くことにしています。

本日は、各診療科の部長等も来ておりますので、忌憚のない御意見をいただき、それを改善

していくという方向で進んで行けば、地域と共に進んで行くことに繋がると思います。

今後とも、東京労災病院をよろしく願います。



ロビーの様子



会場内

アンケート結果について

当日、当院との医療連携について、アンケート調査用紙を配らせていただきました。60名以上の方々から御回答をいただきました。一部を掲載させていただきます。

○ 今後希望される講演会のテーマについて

- | | | |
|--|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 先端医療について 2. 感染症の最新情報について 3. 脳卒中患者の受入、救急体制、連携 4. 医療情報の共有化について 5. 連携ネットワークについて 6. 災害時などの連携について 7. 睡眠時無呼吸症候群について 8. 医師、看護師の診療に関する思い出 9. 病棟の運営 10. がん治療 11. 小児科、皮膚科について 12. 病理、麻酔科のような普通の臨床の場に出ない先生のお話を是非伺いたい。 |  | <ol style="list-style-type: none"> 13. 在宅医療、在宅介護との連携への取組み、実績、方法について 14. 就労における精神科の関わり 15. 静脈血栓症の診断、治療、予防、手術の間に何%起こるか 16. 認知症、リハビリテーションについて 17. 放射線最新の話 18. 各診療科の特色について 19. ヒヤリハット事例とその対策 20. 整形外科に関する講演 21. 各診療科に加えコメディカルでの話題 22. 新しい診断、治療等 |
|--|--|---|

○ 当院との医療連携についてのご意見・ご要望

- | | | |
|---|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 職種間でコミュニケーションがとれる場があると、より連携が組めると思います。 2. 当院でも対応可能と思われる患者様に関して、入院、外来共に、御紹介頂ければと思います。 3. 自分の専門以外の診療科に患者さんを紹介したいのですが、いまひとつ、誰に、何をというきっかけがつかめないうでいます。 4. リハビリ転院された際、当院退院後に東京 |  | <p>労災病院へ一度戻られるのか、直接、在宅医にお願いするのが良いか、転院時に御指示いただけるとありがたいです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 診療科が特定困難なケースの紹介（例えば原因が特定できない不明熱、複数の疾患を持つ高齢者の全身状態悪化等）に際して、紹介先の選定に困惑することがあります。臓器横断的に相談できる総合診療科的な窓口を充実していただけると助かります。 |
|---|---|---|

ご意見・ご要望については、院内で検討をしながら対応に努めてまいります。

貴重な御意見等、ありがとうございました。